

ゴルフ界がひとつになる未来へ向けて 100周年を迎えるJGAが 旗振り役となるべき



JGAは今年10月、創立100周年を迎える。定款を変更し、ゴルフの普及振興を活動の柱に据えたJGAが100年の節目を迎えるにあたりどんな未来図を描いていくべきか。池谷正成会長と山中博史専務理事が語り合った。



JGAの事業内容を語る山中博史専務理事



大変な盛り上がりを見せる日本女子オープン

山中 新型コロナウイルスが5類に移行した2023年はいろいろなことがノーマルな状態に戻りました。その中で、池谷会長にはさまざまなJGA主催競技に足を運んでいただきましたが、いかがだったでしょうか。

池谷 昨年は夏が非常に高温で、どの競技も開催倶楽部がコースのメンテナンスに苦勞されていたことが強く印象に残っています。競技のほうは山中専務理事が言うようにノーマルに戻ったことで3オープン(日本オープン、日本女子オープン、日本シニアオープン)は本格的に観客を入れての開催となったわけですが、日本女子オープンは約2万6000人、日本オープンは2万3000人近い入場者がありました。コロナ禍で足が遠のいていた方も戻ってきて、そういう意味では手応えのある再スタートの年になったのではないのでしょうか。

山中 日本女子オープンは福井県の芦原GCでの開催でした。

池谷 恐竜の化石がたくさん発見されている福井県にちなんで恐竜をイメージしたマスコットをあしらったグッズがとても人気があって、飛ぶように売られていたね。競技の内容も素晴らしかった。

山中 優勝した原英莉花選手と2位の菊地絵理香選手は3日目と最終日が同じペアリングで熱戦を演じましたね。

池谷 二人とも素晴らしい内容のゴルフを展開してくれたので非常に盛り上がりました。日本オープンのほうも久しぶりに石川遼選手が活躍して盛り上げてくれました。優勝した岩崎亜久竜選手は昨年ヨーロッパでつらい思いをしたようですが、そこで学んだことが活かされたような良いゲームをしていました。また1人新しい

ゴルフの普及振興活動に注力する池谷正成会長



ツアーを席巻する選手達のナショナルチーム時代



ガレス・ジョーンズ選手の指導の下、多くの選手達が世界を舞台に羽ばたいている



金谷、中島のマコーマックメダル獲得や蟬川の日本OP優勝につながった



2022年の世界アマ出場時の中島、蟬川、岡田

スターが出てきた感があります。

山中 男子はツアーの賞金ランキング1位から3位がみなJGAナショナルチーム卒業メンバーでした。

池谷 そうですね。実質的なルーキーイヤーだった中島啓太選手と蟬川泰果選手が1位、2位で、少し前にプロ転向していた金谷拓実選手が3位でしたね。JGAがナショナルチームのコーチングスタッフにオーストラリアからガレス・ジョーンズさんら呼んでもう8年経ちましたが、その成果が花開いた年といっても過言ではないと思っています。

山中 欧州DPツアーで優勝した久常涼選手もJGAナショナルチーム出身です。

池谷 久常選手は米ツアーの出場資格を得ましたし、日本の上位3人をはじめ若手が世界の至る所で優勝を、できればメジャーでね、そういうことをやっていただけ

ば日本のゴルフ界が非常に盛り上がります。国内でプレーする機会が減るでしょうけれど、その穴を埋める選手を……。

山中 我々が育てていくということですね。以前はJGAナショナルチームのメンバーがプロになったら我々はノータッチでしたが、今はプロ転向後も希望すればジョーンズヘッドコーチらの指導を受けたり合宿に参加できるといったルーキープロプログラムがあり、アマチュアとプロの一气通貫がうまくいっていると感じます。昨年のダンロップフェニックスでは現役JGAナショナルチームメンバーの杉浦悠太選手が先輩の中島選手や蟬川選手を抑えて優勝という快挙を成し遂げました。
池谷 杉浦選手も今年、活躍してくれるでしょう。女子はナショナルチームOGがひと足先に大活躍してくれていて、今年はさらに話題を提供してくれそうです。

山中 強く皆さんから愛される選手を育てて活躍してもらうというのはゴルフ振興のためにも必要なことだと思います。ゴルフ振興に話題を移しますと、池谷会長が一昨年の6月に就任されてから本格的にゴルフ振興に力を入れるためにゴルフ振興推進本部を立ち上げました。同本部は「情報シェアリング部会」「ゴルフと健康部会」「女性とゴルフ部会」という3つの部会があり、それぞれ具体的な活動をスタートしています。また昨年8月にはR&A主催で日本のゴルフ界が直面している問題点やゴルフ振興などを話し合う「R&Aジャパンゴルフサミット」が開催されました。

池谷 「R&Aジャパンゴルフサミット」は学ぶことが多かったですね。私が再認識したのは日本のゴルフ界は世界の中でも非常に大きな存在だということ。日本はゴルフ場の数、ゴルフ人口でアメリカに次ぐ第二のゴルフ大国でR&Aも大きな関心を持っており、日本のゴルフがさらに発展するようにR&Aの知見を利用してくださいと。ひとつ驚いたのがR&Aはゴルファーの定義の解釈を我々よりもずっと広い視野で見ているということでした。

山中 彼らは練習場だけのゴルファーやシミュレーターゴルフ、さらにはゲームのゴルフなども全部含めてゴルファーのポテンシャルがあると解釈していましたね。

池谷 だから日本でもそのような分野にまで広げて振興していきましょうよ。R&Aは普及振興には非常に力を入れており、日本が振興に力を入れ始めたことに関心を持っていただいていることがよく分かりました。振興という点では女性ゴルファーの参画が我々の重要な目標になっています。

山中 昨年6月に行ったWOMEN'S GOLF DAYはいろんなゴルフ場やいろんな方に参加していただいて評判が良かったですね。女性ゴルファーを増やすだけでなく公益法人としての多様性を実現するために女性の理事を増やすことも求められています。

池谷 重要なことです。それに女性理事だけでなく外部のいろいろな知識を持った方にも参加していただいてJGAの活動が外部に分かる透明な運営をしていくことも重要だと思っています。

山中 変革の時期を迎えているJGAですが、今年10月17日に創立100年を迎えます。ちょうど日本オープン



JGA100年の節目に語る山中専務理事(左)と池谷会長(右)



写真提供：R&A サミット

昨年8月に開催されたR&Aジャパンゴルフサミット

Golf Development 普及振興

日本ゴルフ協会ではアスリートゴルファーのみならず、一般ゴルファーやこれからゴルフを始める方も対象としたゴルフの普及、振興を目指し、様々なゴルフ振興の普及活動を行っています。

ゴルフと健康
Golf & Health

ゴルフを通じて国民の幸福と健康維持増進に寄与し広く社会に貢献することを目的とし、「ゴルフ健康週間」や健康維持増進のための「JGA WAG スクール」などの普及活動を行っています。

女性とゴルフ
Women in Golf

「Women's Golf Day」を始めた女性ゴルファーへの普及活動を行っています。

ゴルフ応援サイト
Golf for Better Life

ゴルフの普及振興に関する情報を収集・発信しています。



100周年を記念して作成されたロゴマーク入りグッズ

池谷 日本オープン会場の東京ゴルフ倶楽部では100周年を祝うためにいろいろな準備をさせていただいているようです。そして日本アマの会場が廣野ゴルフ倶楽部。東西の歴史ある倶楽部で節目の大会を行う形になります。

山中 JGAでは100周年ロゴ入り記念グッズの発売や日本のゴルフの歴史をデジタル化すること、あるいは日本プロゴルフ殿堂とJGAが一緒になって日本ゴルフ殿堂としてやっていくなど、さまざまな活動を計画しています。

池谷 100年前は関東と関西、合わせて7つの倶楽部が一緒になってJGAという組織をつくったわけで、当初は倶楽部中心の運営でした。ですが現在は日本のゴルフ全体をまとめる役割を担った組織へと成長しています。正会員であるメンバーシップの倶楽部だけではなくパブリックのゴルフ場や練習場などと一緒に活動することが現在のJGAの活動に求められていると思います。

山中 我々は公益法人ですし、3年前に定款を変更したのもゴルフ全体のための普及振興を中心にして公益法人として国から求められることをやっていこうとしたからです。昨年は本格的、具体的な活動ができた1年だったので100周年を機に一層加速しなければならないと考えています。

池谷 公益法人になり、オリンピック競技にもなり、与えられている環境条件が変化してきています。それに対応して活動していかなければならない。これから先の100年はさらにそのような活動を進めていくというのが目標になるでしょう。

山中 ゴルフやゴルフ場について世間から誤解されていることはたくさんあります。しかし、ゴルフは健康に非常に良いという研究データが出ていますし、高齢者の孤立や認知症の予防にも役立ちます。それにゴルフ場は雇用や経済効果などで地域社会に貢献していますし、環境保全や災害時の拠点としても活用されています。こういったことをきちんと世間に広くアピールして、

ゴルフのイメージアップを図ることもJGAの大切な役割だと思えます。ゴルフ場利用税や国家公務員倫理規程の問題もまずはゴルフやゴルフ場のイメージアップが先と考えています。そのためにもゴルフの振興をきちんとやっていこうというのが現在の協会としての方針ですね。

池谷 さまざまな求めに応じて活動を強化していくことになりませんが、求められることがこれだけ多岐にわたると現在の財源では対応できないという問題があります。いかにしてJGAの財源を増やしてさらに大きな活動ができるようにするか、今、それに腐心しているところです。

山中 日本のゴルフ界は同じようなことをやっている組織や団体が数多くあって、お金や時間を有効的に使えていないという現状があります。そこをJGAが旗振り役となり、一緒にできることは一緒にやっていく。スリム化していかないと人の力も関心もお金も集まりにくいのではないのでしょうか。

池谷 確かに細分化され過ぎていますね。各団体、日本のゴルフ界のために努力しているということは同じはずですが。協力し合ってひとつの目標の元にやればもっと効率よく運営でき、たくさんの方が出せるはずです。JGAだけでは人員面でも財政面でも時間の面でも限りがある。今までのやり方では限界にきていると感じます。

山中 次の100年に向けては地区ゴルフ連盟やゴルフ界全体での協力体制が重要になってきますね。池谷会長、100周年の節目にJGAとして具体的な数値目標を掲げるのはいかがでしょう。たとえば現在のゴルフ人口は600万人とも700万人とも言われていますが、ゴルフ振興を推し進めて最盛期に近い1000万人くらいにしたいですね。それにハンディキャップインデックス取得者100万人と女性ゴルファーの比率を全体の30%に増やすことも達成したい目標だと思いますが……。

池谷 1000万人というのはそう簡単ではないと思いますが、目標は大きく掲げたほうがいいですね。

山中 今年はパリオリンピックもあります。JGA100周年で日本の選手が金メダルを取れば最高のお祝い事になります。

池谷 先ほどお話しした若い選手たちが活躍してくればゴルフに対する注目が高まりますので、そういう形の中で我々がやっていることを認めていただいて、さらなる展開につなげていきたいですね。

JGA100年の主な歴史(概略)

1924 大正13年	●10月17日「Japan Golf Association」創立。東京・駒沢の東京ゴルフ倶楽部に7倶楽部の代表が参集し、ジャパンゴルフアソシエーション(略称JGA)を創立。
1927 昭和2年	●JGA主催で日本オープン選手権を創始。
1935 昭和10年	●JGA副会長に大谷光明、理事長に森村市左衛門が就任。当時JGAの日本語表記は日本ゴルフ聯盟。
1937 昭和12年	●従来のJGAの英文規約、細則を邦文に改訂し、日本ゴルフ聯盟の名称を日本ゴルフ協会とすることを臨時総会で決定。従来のチェアマン制を会長制に改め森村市左衛門が就任。また、副会長制を廃止して大谷光明が理事長に選任。日本ゴルフ協会の関西支部を茨木カントリー倶楽部内に設ける。
1938 昭和13年	●日本体育協会(現・公益財団法人日本体育協会)に加盟し、陸上、水泳、体操、蹴球などのオリンピック種目と肩を並べられるスポーツ団体として認められた。戦時態勢に入り、ゴルフボールは各倶楽部あての配給制を決定。
1941 昭和16年	●太平洋戦争勃発。昭和17年度のJGA主催各競技の開催は当分見合わせるとして各倶楽部に通告書を発送。
1942 昭和17年	●臨時総会を開催し、解散を決議。大日本体育会の打球部会として発足。部会長に井上匡四郎が就任し、日本ゴルフ協会の事業は打球部会に引き継がれた。日本ゴルフ協会は解散に当たり、各加盟倶楽部に対して、これまでの事業の協力を感謝し、記念品と感謝状を贈る。
1943 昭和18年	●井上匡四郎を部会長に発足した大日本体育会・打球部会は日本の打球の新しい理念と体制との具現確立を目指した打球部会宣言を行った。
1944 昭和19年	●大日本体育会の各部署理事会において、この年度の各部署事業は体育会が管理し、事業を実施しないことを決定。
1945 昭和20年	●太平洋戦争終結。大日本体育会は各部署を解消、寄附行為の改正を文部、厚生両大臣より認可され、日本体育協会(現・公益財団法人日本体育協会)として再出発。日本ゴルフ協会は加盟団体として復帰できたが、施設(ゴルフ場)の復旧が伴わないために活動の再開が遅れた。
1946 昭和21年	●日本ゴルフ協会規約が公示(体育会会報)されJGAの体育協会復帰は公的なものになり、日本各地でゴルフ場の復旧工事が進む。
1949 昭和24年	●日本ゴルフ協会が復活。東京・銀座の交詢社で戦後初のJGA総会が開催。旧打球部会役員、関東、関西両連盟の11倶楽部の代表が出席し、日本ゴルフ協会の復活を決議した。名称を日本ゴルフ連盟と改称。日本ゴルフ連盟は当分の間、旧日本ゴルフ協会規約を準用することにし、ルールは原則として米国新ルールを採用と決定、ボールは英国式の小型球の併用を認めた。
1950 昭和25年	●日本ゴルフ連盟の名称が日本ゴルフ協会になる。
1957 昭和32年	●理事長制を廃止して、会長制に改組。JGAが推進役となって日本プロフェッショナルゴルフ協会が誕生。
1960 昭和35年	●女子委員会設置。
1961 昭和36年	●オリンピック募金(来場者1人から5円)を開始。
1963 昭和38年	●JGAハンディキャップ制の施行。 ●オリンピック募金を来場者1人から10円とし、1人5円は廃止。
1966 昭和41年	●娯楽施設利用税対策委員会を設置。
1968 昭和43年	●娯楽施設利用税反対実行委員会が各加盟倶楽部に陳情署名運動を依頼、政府の税制調査委員会や自治大臣に陳情。
1969 昭和44年	●会則の一部を改定し解散、あらたに関東、関西両連盟で協会を創立。
1970 昭和45年	●国際交流の基金を積み立てることになり、加盟地区連盟の各倶楽部に対して昭和45年5月1日より向う1年半、来場者1人に10円の協力を仰ぐ。
1971 昭和46年	●JGA主催で日本女子オープン選手権を創始(TBS女子オープンを継承)。
1973 昭和48年	●日本体育協会(現・公益財団法人日本体育協会)の加盟団体から退会。
1974 昭和49年	●ゴルフ場固定資産税減額について自治大臣に陳情。日本ゴルフ協会は創立50周年を迎え、東京で記念行事が行われる。
1975 昭和50年	●通産省からの勧告によりコースの距離表示をヤードからメートル法の採用に関し、具体的な指針を加盟各倶楽部に通達。 ●エテケットの精神高揚を目標に「エテケット月間」の設定を決める。
1977 昭和52年	●JGA会長に山形章が就任、安西浩会長は名誉会長に、石井光次郎は顧問。 ●JGA会長に副会長の乾豊彦が就任。
1978 昭和53年	●昭和52年11月25日から53年1月25日まで、全国のゴルフ場、練習場などで娯楽施設利用税免除の陳情署名運動を続けてきたが、100万人を突破したため、JGA会長は当時の自治大臣を訪れ、減免除の趣旨を説明し、善処を要望。
1979 昭和54年	●JGAミュージアム建設資金として1人10円の募金の要請を決定(昭和55年より1年間)。 ●昭和55年より1年間JGAハンディキャップ方式が全国的に実施。
1981 昭和56年	●ジュニア委員会設置。ジュニア選手権を創始し、ジュニアゴルファーの適切な指導に踏み切る。 ●広報委員会を設置、広報活動の活性化を図る。
1982 昭和57年	●JGA創立55周年を記念して創設されたゴルフミュージアムが廣野ゴルフ倶楽部に開場。
1983 昭和58年	●JGA副会長に細川護貞が就任。
1984 昭和59年	●香港で開催された第14回世界アマチュア・チーム選手権で日本チーム(阪田哲男、加藤一彦、尾家清孝、木村憲明)が初優勝。 ●JGA創立60周年記念祝賀会が東京で行われ、英、米を始めアジア各国のゴルフ協会長が多数参列。 ●距離表示にメートル、ヤードの併記を各ゴルフ場に勧奨。
1985 昭和60年	●JGA会長に細川護貞が就任し、前会長乾豊彦は名誉会長に。安西浩は顧問。 ●1985年度のゴルフ国際会議、R&Aの委員会に委員を派遣し、一層の国際化を進める。
1986 昭和61年	●用具審査委員会を設置。 ●主催競技開催コースの距離表示をヤードに統一。 ●従来のジュニア委員会を吸収したジュニア育成委員会が発足。
1987 昭和62年	●日本体育協会(現・公益財団法人日本体育協会)に加盟復帰を申請。 ●文部省より財団法人として認可される。寄附行為改訂により、30名の評議員会を設置。
1988 昭和63年	●普通会員、ジュニア会員、賛助会員制度発足。
1989 平成元年	●昭和天皇、崩御。大喪の礼が陛下のゴルフのゆかり深い東京・新宿御苑で行われる。 ●理事会で政策委員会及び財務委員会、グリーン委員会の設置を決定。
1990 平成2年	●女子部会を設置。 ●JGA、日本ゴルフ場事業協会、ゴルファーの緑化促進協会と日本パブリックゴルフ協会の4団体は、環境・社会問題芝草研究に対応すべく日本ゴルフ関連団体等協議会の設置を決定。 ●文部省より主催競技の後援名義が使用認可され、大臣杯、賞状の交付が行われることとなる。 ●またスポーツ振興基金より日本アマチュア・女子アマチュア選手権に約600万の助成金を受けることとなった。
1991 平成3年	●ゴルフ関連団体協議会は日本芝草学会の協力を得て「日本芝草研究開発機構」を設立、グリーンキーパーライセンス制度を創設。 ●日本体育協会(現・公益財団法人日本体育協会)に復帰加盟(昭和13年5月31日加盟、昭和48年3月30日退会)にともない体協会員制度を発足。 ●理事会で(財)日本オリンピック委員会(現・公益財団法人日本オリンピック協会)(JOC)に加盟決定。 ●体協加盟により具体協に加盟している熊本、大分、栃木、埼玉、山梨、山口の6団体が加盟承認された。
1992 平成4年	●女子委員会・尾関久江委員長が初の女性理事に選任。 ●平成6年に創立70周年を行うため、準備委員会を設置。また70年史発行のため年史編集委員会を設置。 ●(財)日本オリンピック委員会(現・公益財団法人日本オリンピック協会)(JOC)に準加盟団体として加盟承認された。
1993 平成5年	●JGA創立70周年記念式典を都内ホテルにて開催。
1994 平成6年	●JGA会長に後藤田正晴、細川護貞は名誉会長にそれぞれ就任。前年、細川の会長退任後、副会長の中井文治がこの日まで会長を代行。
1998 平成10年	●日本全国にゴルフコースは2,000を超え、英米に次ぐゴルフの盛んな国に成長、グルームがコースを造った年を日本のゴルフ元年として2001年を「ゴルフ100年」としてゴルフ関連団体と共同してさまざまな記念式典を行った。 ●「日本のゴルフ100年」を祝う記念レセプションが都内ホテルで開催され、海外からの賓客を含む400余人が出席。米ゴルフ協会のフォーランド、R&Aキャプテンのシマーズらから祝辞が寄せられ「日本のゴルフ100年」を祝った。この機に日本のゴルフの発展に貢献のあった大谷光明元JGAチェアマン以下53人の先達を顕彰し、その偉業を讃えた。
2001 平成13年	



1924年 JGA創立の会合が開かれた東京ゴルフ倶楽部(駒沢)



1927年 選手権に赤星八郎が優勝。1927年創始されたばかりの日本オープンゴルフ



1971年 JGA主催となり大粒CCで開催された日本女子オープン



1982年 貴重な展示物や資料が多数揃えられている(JGAゴルフミュージアム内)



1984年 世界アマボク大会で優勝を果たした日本チーム



2001年 日本ゴルフ100年記念レセプション

2002 平成14年	●日本のゴルフ界が待ちこがれていたゴルフ場利用税の一部改正が実現し、平成15年の4月から身体障害者、18歳未満のゴファー、学校教育法(第1条)に規定する学校の先生、生徒および教育者(保健体育の実技または公認の課外活動の場合に限る)、70歳以上のゴルファー、国民体育大会の選手に対してはゴルフ場利用税が非課税扱いとなる。 ●日本ゴルフ協会がゴルフ場利用税廃止運動を起こして以来、初めての朗報で、これまでに全国のゴルファー 840万人の署名が集まった。
2003 平成15年	●JGA会長に安西孝之が就任。
2011 平成23年	●東日本大震災が発生。JGAを始めとする日本ゴルフ関連20団体は、日本ゴルフ界合同震災復興支援チャリティープログラムに取り組みすることを発表。「震災復興支援グリーン・ティー・チャリティ〜日本のゴルフが、日本のチカラに〜」のスローガンの下、募金箱の設置やチャリティグッズの販売などの支援活動に取り組んだ。日本ゴルフ協会では、主催競技に「震災復興支援グリーン・ティー・チャリティ」を冠し、競技会場での募金活動を行ったほか、主催オープンゴルフ選手権の賞金5%を獲得賞金選手から赤十字社へ寄付を行った。また、各ゴルフ場においても独自の支援活動に取り組み、被災地の1日も早い復興のための活動に日本ゴルフ界が一致団結して取り組んだ。
2012 平成24年	●新しい公益法人制度(公益法人関連三法)の施行に伴い移行認定を受け、4月に公益財団法人移行手続きを行い、公益財団法人として新たなスタートを切った。 ●常務理事で国際委員長(当時)を務める川田大三が、2013年度ジョー・ダイ賞を受賞することがUSGAから発表された。同賞は、ボランティアでゴルフ競技に多大な貢献を果たした個人に贈られるもの。川田の30年にわたるゴルフ競技の国際親善大使としての貢献とUSGA主催のナショナル選手権への貢献に対して受賞が決定したもので、初の米国人以外の受賞者となった。なお、表彰式は2013年2月のUSGA年次総会で挙行された。
2013 平成25年	●ペノスアイルズで行われた国際オリンピック委員会総会で2020年オリンピックの開催都市が、東京に決定。 ●1964年以来2度目。ゴルフ競技は、埼玉県の霞ヶ関CCが舞台となる。
2014 平成26年	●これまでのJGA ハンディキャップを改正すると共にハンディキャップ査定システムを「NEW J-sys」に改修して稼働し、USGAハンディキャップシステムの運用を開始。規定は「JGAハンディキャップ規定(USGAハンディキャップシステム準拠)」に改め、倶楽部にはコースレーティングに加えスロープレーティングを付与した。 ●52年ぶりのホスト開催となった世界アマチュアゴルフチーム選手権が軽井沢J2ゴルフ・東 入山/押立コースで行われた。日本では初開催となるエスピリトサントロフォー世界女子アマチュアゴルフチーム選手権には50チームが出場。オーストラリアが通算-29で優勝し、日本チームは15打差の8位。 ●続いて行われたアイゼンハートロフォー世界アマチュアゴルフチーム選手権は67チームが出場。ブライアン・デシモンボー擁するアメリカが通算-38で15回目の優勝を果たした。日本は通算-12で29位タイに終わった。
2015 平成27年	●平山伸子理事が日本人で初めて国際ゴルフ連盟(IGF)の女子チェアマンに就任。2018年まで同職を務めた。 ●翌2016年にはIGF理事に選出され、またアジア太平洋ゴルフ連盟(APGC)の理事にも就任。 ●JGA主催ナショナルオープン改革の一環として日本オープンでアマチュア予選会「ドリームステージ」を創設。 ●JGA/USGAハンディキャップインデックスを取得していれば誰でも参加可能な世界的にも例を見ない門戸開放を行う。 ●JGA会長に竹田恒正、名誉会長に12年間会長を務めた安西孝之前会長が就任。あわせてリオオリンピックに向け倉本昌弘PGA会長がオリンピックゴルフ競技対策本部強化委員長、小林浩美LPGA会長の同副委員長就任を発表。 ●第100回日本アマチュアゴルフ選手権を開催。100記念大会として東西での予選会を開催。 ●本選は36ホール・ストロークプレーを廣野GCと小野GCで行い、上位64名によるマッチプレーを廣野GCで実施。金谷拓実と中島啓太の史上最年少優勝記録をかけた決勝は、金谷が勝利を収め、17歳51日の最年少優勝を達成。 ●JGAナショナルチームに海外から初のヘッドコーチとしてオーストラリアからガレス・ジョーンズを招聘。 ●2016年から日本男女アマを36ホール・ストロークプレー上位 32名によりマッチプレー方式から72ホール・ストロークプレーに変更することを発表。
2016 平成28年	●政界・スポーツ界・文化・芸能などゴルフに深い造詣を持つ有識者による「全日本ゴルフ振興会議」が発足。発起人のほか、鈴木大地スポーツ庁長官、衛藤正士郎ゴルフ振興議員連盟会長らが出席する第1回会議を開き、国民のムーブメントとしてゴルフ振興の機運を高めようという意見交換を行った。 ●ゴルフフックの一端として「スポーツ庁長官杯第1回全国ゴルフフェスタ全国大会」を開催。 ●スポーツ庁が初めて長官杯を提供して、本大会の開催趣旨に賛同いただいた全国287コースで開催した本大会は、JGA/USGA ハンディキャップインデックスを取得している3,922名のアマチュアゴルファーが参加。 ●リオオリンピックゴルフ競技が行われ、日本代表として男子は片山晋吾と池田勇太、女子は大山志保と野村敬京が出場。男子競技はジャスティン・ローズ、女子競技は朴仁妃が金メダルを獲得。 ●日本女子オープン(鳥山城)で畑岡奈紗が史上初のアマチュア優勝を果たし大会最年少優勝記録を更新。
2017 平成29年	●R&Aスティパニリティセミナーを横浜CCで開催。 ●R&AとUSGAが世界統一ハンディキャップシステム開発に着手し2020年から稼働予定と発表。 ●日本男女アマチュアゴルフ選手権で東西2会場の予選会開催を発表。
2018 平成30年	●R&AとUSGAが2019年1月1日から施行されるゴルフの規則の概要を発表。 ●ドロップの方法やコース名称の変化など1984年以来35年ぶりの大改訂となる。 ●芥屋GCで開催の日本アマチュアゴルフ選手権が陰鬱な気象状況によるコンディション悪化のため大会史上初の競技不成立に。
2019 平成31年 令和元年	●1984年以来35年ぶりの大幅改定となったゴルフ規則が施行。複雑化したゴルフ規則をシンプルにわかりやすくし、文面もより平易にし近代にあったものに更新された。 ●日本オープンの賞金総額を2億1,000万円に増額。優勝賞金は4,200万円に。 ●日本女子オープンの賞金総額を1億5,000万円に増額。優勝賞金は3,000万円に。 ●東京都内でアジア初となる「USGAゴルフイノベーション・セッション」が開催された。USGAが主催する本セッションは、世界的に競技人口の減少が懸念される中、ゴルフを継続的に発展させるためにゴルフ施設の生産性改善の取り組みや、研究成果を発表するもので、アメリカ他、メキシコ、韓国、香港、オーストラリアでの取り組みが紹介された。 ●3本部制を廃止し、委員会を再編(19委員会に)。 ●IOCが新型コロナウイルス感染症拡大のため東京オリンピックの翌年延期を決定。 ●新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、2020年JGA主催アマチュア全競技の中止。 ●2020年日本シニアオープンゴルフ選手権/日本女子オープンゴルフ選手権/日本オープンゴルフ選手権のプロアマ大会中止。一般非公開開催。あわせてナショナルオープン賞金総額を25%減額。 ●金谷拓実が世界アマチュアゴルフランキング1位に与えられるマコーマックメダルを日本選手として初めて獲得。
2020 令和2年	●WHS(ワールドハンディキャップシステム)の日本導入を2022年4月と発表。 ●JGA定款を変更。ゴルフの健全な普及と振興、イメージアップを図る活動がJGAの最も大切な事業であることを明確にした。 ●マスターズ・トーナメントで松山英樹が日本選手初のメジャータイトルを獲得。 ●全米女子オープンで笹生優花と畑岡奈紗の日本選手同士のプレーオフが行われ、笹生が初優勝を飾る。 ●東京オリンピック2020が開幕。205の国と地域から約11,000人が参加。コロナ禍の緊急事態宣言の中で、観客客席となったが、無事に全日程を終了。日本選手団は金メダル27個を含む58個と史上最多のメダルを獲得した。ゴルフ競技の日本代表選手として松山英樹、星野陸也、畑岡奈紗、稲見萌華が出場。男子ゴルフはザンダー・シャウフェルが金メダルを獲得。松山英樹は4位タイ、星野陸也は38位タイ。女子ゴルフはネリー・コルダが金メダルを獲得。稲見萌華がプレーオフでリディア・コを退け、女子ゴルフ日本選手初の銀メダルを獲得。畑岡奈紗は9位タイ。
2021 令和3年	●ゴルフ振興推進本部を設置。情報シェアリング、女性とゴルフ、ゴルフと健康の3部会でゴルフ振興に取り組み体制とした。 ●2022年度第1回定時評議員会として任期満了に伴う役員(理事・監事)の改選を行い、その後に開催した臨時理事会にて池谷正成会長の就任が決定。竹田恒正前会長は名誉会長に、安西孝之前名誉会長は特別顧問に就任した。 ●また、スポーツパナソニックに準じて役員(理事)の女性の割合を30%とした。 ●畑川泰果が日本オープンゴルフ選手権で95年ぶり2人目のアマチュア優勝を飾る。 ●JGAゴルフ振興推進本部で「ゴルフ応援サイト」を開設。全国の地区連盟、JGA加盟倶楽部、ゴルフ関連団体の他、海外でのゴルフ振興に関する情報を掲載。
2022 令和4年	●公益財団法人日本オリンピック委員会(JOC)の評議員会が開催され、JGA理事を務める服部道子がJOC理事に就任 ●都内ホテルで「R&Aジャパンゴルフサミット」が開催。 ●R&Aが主催する本サミットは、日本のゴルフが直面している問題点を話し、日本の様々なゴルフ関係者が集結して重要な役割を果たすために日本ゴルフ協会、地区ゴルフ連盟、プロ3団体、ゴルフメーカー、ゴルフ場運営会社から幅広い分野から約85名が招待され、ゴルフと健康など様々なテーマでセッションが行われた。
2023 令和5年	



2011年 ゴルフ関連20団体がひとつになって動いた震災復興支援グリーン・ティー・チャリティ



2012年 米国人以外初のジョー・ダイ賞を受賞した川田大三



2014年 1962年以来、52年ぶりの日本開催となった世界アマチュアゴルフチーム選手権



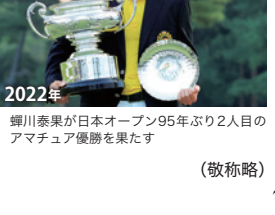
2016年 畑岡奈紗が日本女子オープンで史上初のアマチュア優勝を達成



2020年 日本人選手初マコーマックメダルを獲得した金谷拓実



2021年 (左)松山英樹がアジア勢初のマスターズ優勝(右)2020東京五輪で稲見萌華が日本ゴルフ界初の銀メダル獲得



2022年 畑川泰果が日本オープン95年ぶり2人目のアマチュア優勝を果たす

(敬称略)